

## 人の扱い方講習会の要約

各回 2 時間

回	目 的	強 調 点
第 1 回	<p>毎日の人と人との関係が職場における監督者の職務のうち、最も重要な部分の一つであることをはっきりさせる。</p> <p>人と人との関係をよくするための基本心得を提示する。</p> <p>人と人との関係から起こる問題を解決するための 4 段階法を確立する。</p>	<p>監督者は部下を通じて成果をあげる。部下は個人として扱わねばならぬ。</p> <p>よい監督のやり方によって多くの問題が未然に防止されるが、監督者は発生した問題を処理する方法を知らねばならない。</p>
第 2 回	<p>第 1 段階「事実をつかむ」に習熟する。</p> <p>第 1 段階を皆が習得するために、トレーナーが 1 つの問題を提出して第 1 段階を強調し、4 段階法を皆が練習するために 2 人の受講者がおのおのの問題を持ってきてこれについて調べる。</p>	<p>事実を完全に知らなければならない。</p> <p>言い分と気持ちを求め、他の事実とともに考慮しなければならない。</p> <p>人は皆違っているから、個人としてその人を観察しなければならない</p>
第 3 回	<p>第 2 段階「よく考えて決める」に習熟する。</p> <p>第 2 段階を皆が習得するために、トレーナーが 1 つの問題を提出して第 2 段階を強調し、4 段階法を皆が練習するために 2 人の受講者がおのおのの問題を持ってきてこれについて調べる。</p>	<p>適正に評価し、正しい関連を持った事実を基礎として決定がなされなければならない。</p>
第 4 回	<p>第 3 段階「処置をとる」と第 4 段階「あとを確かめる」の重要性をはっきりさせる。</p> <p>第 3、第 4 段階を皆が習得するために、トレーナーが 1 つの問題を提出してこれらの段階を強調し、4 段階法を皆が練習するために 2 人の受講者がおのおのの問題を持ってきてこれについて調べる。</p>	<p>監督者は自分の責任を知らなければならない。また、処置のころあいに注意し、あとを確かめなければならない。</p> <p>その当人、職場のものおよび生産がどうなったか注意する。</p>
第 5 回	<p>4 段階法を皆が練習するために、2 人の受講者がおのおのの問題を持ってきてこれについて調べる。</p> <p>基本心得、4 段階法および言い分や気持ちのつかみ方を復習し要約する。</p> <p>部下以外の者と監督者との間に存在する関係を考える。すなわち、他の職場、傍系管理部門および上級監督者など。</p>	<p>4 段階法の使い方をいっそうよく身につける。</p> <p>これらの重要性をみなのもってきた問題をとおして示す。</p> <p>部下以外の人と人との関係にもこの方法が応用されることを示す。</p> <p>監督者は人びとを通じて成果をあげる。</p>